



# 目次

■まえがき	1	第2章 社会医学への関心	47
■編集方針・凡例	2		
序章 総説	11	第1節 実態調査の勃興	50
第1章 第一次大戦と日本の医学	17	*資料	
第1節 医薬品の国産振興	18	2-1 日本壮丁に関する医学的観察	51
*資料		2-2 女工と結核	57
1-1 薬業調査会設置の建議書	20	2-3 保健衛生調査の必要	61
1-2 臨時薬業調査委員会諮問事項	22	2-4 保健衛生調査会第一回報告	62
1-3 製薬独立の将来	23	2-5 農村保健衛生実地調査成績	64
第2節 国際性の伸張	25	2-6 給料生活者労働者農業者の医療費 に就て	69
*資料		第2節 新しい医学を求めて	72
1-4 米国医学の進歩	27	*資料	
1-5 日本医学の将来	28	2-7 社会衛生学	75
1-6 巴里に於ける日本赤十字病院	29	2-8 応用社会学と医学の接近	76
1-7 独逸医家慰問会	30	2-9 社会衛生学講座開設趣意書	78
1-8 独逸学者の対日感情	31	2-10 社会科学トシテノ医学——社会医 学序論	78
1-9 熱帯医学会に餞す	32	2-11 医の本質と社会的矛盾	81
1-10 日本の公衆衛生	33	2-12 現代医療制度に於ける内在的矛盾	82
第3節 基礎医学研究体制の充実と医療 技術の普及	35	2-13 東京帝国大学セツルメント十二年 史	84
*資料		2-14 私の診療経験	89
1-11 加藤元一への学士院賞授賞反対の 公開質問状	38	第3節 労働科学研究所の創立とその 発展	95
1-12 台東庁下紅頭嶼流行病調査概要	39	*資料	
1-13 欧米及日本に於ける虫垂炎の今昔	43	2-15 大原社会問題研究所設立趣意書	97
1-14 陸軍外医科器械検査	44	2-16 日本社会衛生年鑑(大正9年版)	98
		2-17 労働科学について	101
		2-18 倉敷労働科学研究所紀要	104

第3章 医療の普及運動	105	*資料	
第1節 軽費診療	107	4-1	衛生行政機関の統一改善に関する建議
*資料			173
3-1	社団法人実費診療所に対する意見書	4-2	再び衛生省設立の急務に就て
	109		173
3-2	医療組合の現状	4-3	保健社会省(仮称)設置要綱および保健社会省設置要綱ニ関スル閣議諒解事項
	112		177
3-3	日本無産者医療同盟		
	119		
3-4	ヨロケ		
	121		
第2節 健康保険法の成立	126	第2節 民族衛生	179
*資料		*資料	
3-5	健康保険制度を急とする理由	4-4	日本人の解剖学
	128		181
3-6	療養担当規則	4-5	在外日本児童ノ身体发育
	129		182
3-7	日本医師会健康保険診療報酬点数計算規程	4-6	日本民族衛生学会の主張
	131		185
3-8	健康保険法改正についての各方面からの意見	4-7	人口政策に関する意見
	135		186
第3節 文明病と国民病	139	4-8	人口政策確立要綱
*資料			188
3-9	結核予防法案	4-9	最低生活費と一億人口
	142		190
3-10	「サノクリジン」ニ関スル警告		
	144	第3節 保健技術の再編成	192
3-11	吾が国に於ける瞞着的肺病療法	*資料	
	145	4-10	公衆衛生院規程および養成訓練事業
3-12	性病予防問題に就て		193
	150	4-11	厚生省研究所事務分掌規程
3-13	日本性病予防協会設立ノ理由		197
	151	第4節 医学研究の組織化	199
3-14	花柳病院繁昌記	*資料	
	152	4-12	医学関係研究機関設立の建議案
3-15	日本「トラホーム」予防協会設立趣意		200
	154	4-13	日本学術振興会学術部第8常置委員会の補助研究実施の概要
3-16	癩予防に関する意見		201
	155	4-14	日本学術振興会学術部アイヌ旧第8小委員会概要
第4節 産児制限と乳幼児保護	158		207
*資料		4-15	日本学術振興会学術部東北地方衣食住改善第20小委員会概要
3-17	雑誌『産児調節評論』		209
	160	4-16	日本学術振興会学術部特別委員会および小委員会一覧
3-18	山嘸女史家族制限法批判		210
	163	4-17	本邦医学研究の現状調査
3-19	小児保健所設置の趣旨		212
	165	第5節 医療担当者の大量養成と医学の哲学	213
3-20	所謂脳膜炎ノ予防及治療ニ就テ	*資料	
	167	4-18	裕医
3-21	済生会臨時巡回看護班		214
	168	4-19	医学教育刷新案
			220
第4章 医学の戦時体制への傾斜	171	4-20	医術は崇高なる芸術
			226
第1節 厚生省の発足	172	4-21	日本医学研究会の宣言および趣意書
			228
		4-22	京都大学学生結核研究班報告
			229

4-23 全国保健婦普及分布状況と養成機 関設置の現状……………	232	症の発生機序……………	302
		5-21 石川県農村結核の研究……………	305
<b>第5章 総力戦と医療</b> ……………	239	<b>第5節 軍事医学</b> ……………	308
<b>第1節 体力医学と医療の組織化</b> ……………	241	*資料	
*資料		5-22 陸軍軍医学校調査研究に関する長 期計画……………	310
5-1 医療制度改善方策……………	243	5-23 細菌戦の裁判記録……………	310
5-2 医療管理要綱概要および国民医療 法……………	246	<b>第6章 敗戦と占領下の医学</b> ……………	317
5-3 日本医療団の創設……………	248	<b>第1節 軍政下の公衆衛生の進展</b> ……………	319
5-4 国民体力法……………	249	*資料	
5-5 健民修練所……………	252	6-1 保健医療に関する占領軍覚書一覧…………	322
5-6 隣組に於ける健康管理組織（清水 市）……………	255	6-2 公衆衛生対策＝関スル覚書……………	325
<b>第2節 国民の栄養</b> ……………	257	6-3 大阪の発疹チフス防疫顛末記……………	326
*資料		6-4 彦根市のマラリア対策……………	328
5-7 国民食糧の現状——社会経済並に 保健に関するもの……………	258	6-5 昭和21年度国民栄養調査概要……………	331
5-8 国民食に於ける蛋白必需量につい ての基本的調査報告……………	259	6-6 大阪の工場労働者六十五家族の現 状（1946年6月、7月）から……………	336
5-9 決戦生活の徹底化に関する東条首 相の意見……………	263	<b>第2節 医学教育のアメリカ化</b> ……………	342
5-10 決戦食生活……………	264	*資料	
5-11 国民栄養ノ現況＝関スル調査報告…………	267	6-7 日本に於ける医学教育改善案……………	343
5-12 戦争栄養失調症……………	269	6-8 診療及公衆衛生に関する実地修練 実施要項……………	348
<b>第3節 農村と労働の医学</b> ……………	272	6-9 第2回医師国家試験問題……………	348
*資料		6-10 医学教育委員会の事業に対する指 針……………	351
5-13 朝鮮の農村衛生——慶尚南道達里 の社会衛生的調査……………	275	<b>第3節 病院機構の改善</b> ……………	354
5-14 純農村の医学的分析——方法論を 主として……………	278	*資料	
5-15 戦ふ農村をおかす農婦病について…………	284	6-11 敗戦直後の病院状況……………	356
5-16 某工場に於ける災害の統計的並に 臨床的研究……………	285	6-12 病院の分類とその採点基準……………	357
5-17 大戦中の労働医学の回顧……………	290	6-13 国立療養所化学療法共同研究班の 業績を巡って……………	360
5-18 近代工業の労働環境……………	296	6-14 大学病院研究会中間報告……………	366
<b>第4節 戦時下の結核問題</b> ……………	299	<b>第7章 主体性回復への歩み</b> ……………	373
*資料		<b>第1節 医学の反省</b> ……………	374
5-19 BCGによる結核予防接種……………	301	*資料	
5-20 結核初感染の臨床的研究——結核		7-1 新日本の建設と医療私見……………	376

7-2	医学の反省	378	第2節	医学・医療の標準化	462
7-3	第12回日本医学会開会の辞	379	*資料		
7-4	科学者と戦争責任	381	8-7	臨床検査センター基礎資料	464
7-5	社会医学への道	384	8-8	第2回医師会病院現状調査報告書	469
第2節	医学再建への模索	385	8-9	自動問診機の試作	471
*資料			8-10	日本における動物実験の現状	475
7-6	『医学のあゆみ』の創刊	386	第3節	人口構造の変化と成人病	476
7-7	バムピング療法の紹介	388	*資料		
7-8	フィラトフ会の結成	389	8-11	産児調節世論調査	480
7-9	ペニシリンの報道第1報	391	8-12	岡山対癌協会	482
第3節	医療の民主化運動	393	8-13	医学的リハビリテーションに関する現状と対策	483
*資料			8-14	ライシャワー事件と精神衛生法	487
7-10	患者生活擁護同盟の結成	396	第4節	医薬業の伸張	489
7-11	開業医の生活時間構造	398	*資料		
7-12	朝日訴訟事件	401	8-15	医薬品工業の当面する問題	491
7-13	開業医の研修状況	402	8-16	医薬品広告費の現状	494
7-14	黄変米騒動記	406	8-17	ドライミルク中毒事件	497
7-15	ポリオエワクチン問題	410	8-18	薬学研究白書	503
第4節	農村医学の再出発	414	8-19	アンブル風邪薬禍	507
*資料			第9章	医学の現在の課題	509
7-16	明るい村	416	第1節	医療概念の再検討	510
7-17	ルポルタージュ 佐久総合病院	419	*資料		
7-18	岩手の保健活動	422	9-1	公衆衛生は黄昏か?	512
第5節	原爆症への主体的接近	426	9-2	医療制度改革の基礎理念	513
*資料			9-3	医学の進歩の景観	515
7-19	所謂「原子爆弾傷」に就て——特に医学の立場からの対策	428	9-4	医療制度全般についての改善の基 本方策に関する答申	518
7-20	ビキニ海域被災漁夫の症状経過	430	第2節	公害と職業病	520
7-21	放射線影響国際学術懇談会の開催	433	*資料		
第8章	医療の“合理化”と合理性と	441	9-5	水俣病	523
第1節	外科技術の進歩と医療器械	447	9-6	大気汚染防止の宇部方式	529
*資料			9-7	四日市喘息	529
8-1	麻酔科講習会の開催	450	9-8	自治研と地域保健	530
8-2	血液銀行の設立	451	9-9	白ろろ病撲滅のたたかい	533
8-3	輸血梅毒事件最終判決書	454	第3節	自主的な医育改善への胎動	535
8-4	小児外科について	455	*資料		
8-5	心臓血管外科の進歩	456	9-10	医学教育の岡山方式	537
8-6	国立医療技術研究所の構想	460			

9-11	医学教育はこれでよいか	545
9-12	生理学学生実習改善に関する要望書	552
9-13	医学教育における臨床解剖学の現状と将来	553
9-14	京都府立医科大学眼科教室の新しい試み	555
9-15	インターン制度の廃止について	557
9-16	インターン闘争	563
9-17	無給医局員の“研究専念日”	564

第4節 海外への医療協力 ..... 566

\*資料

9-18	海外医療協力の推進	568
9-19	中共の住血吸虫病防治対策に対する意見書	569

9-20	インドへ救ライ病院を贈る	570
------	--------------	-----

終章 展望 ..... 573

§1	世界の医学史	573
§2	日本の医学の100年	576
§3	展望のための整理	578
§4	おわりに	579

■年	表	581
■参考文献	目録	595
■索	引	611